



～ 全国学力調査について ～

毎年6年生を対象に行われている全国学力・学習状況調査について、結果が報告されましたので、本校の分析結果と対応についてお知らせします。

今年度の本校の児童は、国語科の正答率は、全国・県と平均がほぼ同じ、算数科の正答率は、全国・県の平均よりやや下回っていました。

この調査は、子供たちの学力や学習状況を把握・分析し、子供たちへの教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。この基本姿勢のもとに本校では、子供たちの学力向上に向け、指導の充実を図っていきたいと思います。

1 国語について

(1) 国語科に関する意識調査より

設問 ◎全国平均よりよい現れが出ている設問 ▲全国平均より落ちている設問	肯定的な回答の割合	
	本校	全国
▲国語の勉強は好きですか。	48.9	62.0
▲国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。	93.1	93.2
◎国語の授業の内容はよく分かりますか。	87.8	86.3
◎国語の授業で、目的に応じて、話すための材料をいくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら伝える内容を考えていますか。	87.7	80.0
◎国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか。	91.1	83.2

(2) 国語の傾向

情報の扱い方に関する事項では、安定した力が身に付いています。しかし、「話すこと」「聞くこと」に関する事項や漢字を正しく使うことにやや課題が見られました。

【問題例】

《全国と比較して正答率が高かった問題》

○「高山さんのメモ」の書き出し方を説明したものとして適切なものを選択する問題

本校 91.2 全国 86.9

○物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題

本校 78.0 全国 72.6

《全国と比較して正答率が低かった問題》

○高山さんの文章の下線部を、漢字を使って書き直す問題 (きょうぎ)

本校 33.0 全国 43.4

○学校の取り組みを紹介する内容を「和田さんのメモ」にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する問題

本校 54.9 全国 62.5

(3) 本校としての対策

国語の学習が好きな児童や「将来役に立つ」と考えている児童は全校平均に比べ少ない結果でした。しかし、国語の授業の内容はよく分かったと答えた割合は高いです。子供たちが主体的に取り組んでいけるよう、学習課題や課題解決の方法を選択したり、振り返りの場面で、自分の学びを実感したりできるようにします。

文脈に即して漢字を正しく書くことに関しては、どの学年も継続して家庭学習（書

き取り）や漢字テスト等で取り組み、定着を図っていきます。また、作文や日記、普段の振り返りを文字で書く時には、習った漢字を用いて文を書くよう指導していきます。

2 算数について

(1) 算数科に関する意識調査より

設問 ◎全国平均よりよい現れが出ている設問 ▲全国平均より落ちている設問	肯定的な回答の割合	
	本校	全国
▲算数の勉強は好きですか。	58.9	61.0
◎算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。	96.6	94.1
◎算数の授業の内容はよく分かりますか。	90.0	82.1
◎算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	87.8	83.3
◎算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか。	91.1	84.6

(2) 算数の傾向

数量の関係を□を用いた式に表すことについて、基礎的・基本的な力が身に付いていました。速さについての理解や判断した理由を説明すること、図形の構成要素の位置関係の理解に課題が見られました。

【問題例】

《全国と比較して正答率が高かった問題》

○はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ問題

本校 90.1 全国 88.5

○示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く問題

本校 76.9 全国 73.3

《全国と比較して正答率が低かった問題》

○円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ問題

本校 59.3 全国 71.3

○直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題

本校 26.4 全国 36.5

○家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く問題

本校 23.1 全国 31.0

○家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く問題

本校 45.1 全国 54.1

(3) 本校としての対策

算数も「好き」と答えた児童の割合が全国平均を下回る結果になりました。一方、「将来役に立つ」と考えている割合は高いことから、必要感を感じているものの苦手意識が強い傾向にあると考えられます。

必ず該当学年で定着させたい基礎となる内容は、今後の算数科の学習でも活用することから、その単元の学習が終わっても随時復習し、確実な定着を図っていきます。また、図形領域に関しては、低学年から実物に触れ、図形を構成する要素を見出し、必要な情報を判断できるように系統的に取り組んでいきます。速さに関しては、もう一度間違いをやり直し定着を図ります。

生活に関係する身近な学習課題を設定し、解く必然性が生まれるようなめあてを工夫することで、算数への興味を向上していきます。

3 質問紙調査について

(1) 気になる設問について

設問 ◎全国平均よりよい現れが出ている設問 ▲全国平均より落ちている設問	肯定的な回答の割合	
	本校	全国
◎自分には、よいところがある。	93.3	84.1
◎先生は、あなたのよいところを認めてくれる。	92.3	89.9
◎先生は、授業やテストで間違えたところや、理解してないところについて、分かるまで教えてくれている。	93.3	87.9
◎将来の夢や目標をもっている。	91.2	82.4
◎困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談ができる。	82.3	67.1
◎学校に行くのが楽しい。	91.1	84.8
◎友達関係に満足している。	95.6	91.1
◎普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	95.5	81.7
◎分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	86.7	80.7
◎地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	88.9	83.7
◎5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器の活用について		
（１）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。	93.3	85.5
（２）分からないことがあった時に、すぐに調べることができる。	96.6	92.1
（３）楽しみながら学習を進めることができる。	91.1	86.0
（４）画像や動画、音声を活用することで学習内容がよく分かる。	95.5	89.8
（５）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。	94.5	79.2
（６）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。	96.7	86.1
（７）友達と協力しながら学習を進めることができる。	90.0	87.1
▲学級をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている。	81.1	84.2
▲新聞を週に1回以上読んでいます。	7.7	11.6
▲学校の授業時間以外に、普段1日1時間以上勉強している。	52.2	54.6
▲学校が休みの日に1日1時間以上勉強している。	40.0	51.6

(2) 傾向と改善方法等について

- 質問紙調査から、自己肯定感の高まりや友達や先生との良好な関係がうかがえます。これからも、一人一人よさを認め、寄り添い、全ての子供の可能性を伸ばせるよう支援していきたいと思います。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」数値が高いことから、家庭や地域からも温かく見守られていることが読み取れます。さらに、家庭や地域との連携を深め、協働しながら人づくりができるよう、持続可能な「コミュニティ・スクール」の活動を計画し実践を重ねていきます。
- 本校の卒業生であり、国産旅客機第一号を製作した福長浅雄氏の生き方をモデルにした「夢を育む活動」が実を結び、飯田小の子供たちは、夢や希望をもち、その実現に向かって努力することの素晴らしさを理解し、実践するようになっていけると考えられます。全ての教育活動で夢を育む活動を継続していきたいと思います。
- ICT機器の活用効果は上がってきており、成果として表れていることをうれしく思います。さらに、活用方法を職員で研修をし、広げることにより個別最適な学びの実現を目指していきます。
- 新聞に関しては、学校で機会あるごとにタブレットで読める新聞記事を読み、学年の実態に応じて読解力や語彙力を向上させていきたいと思います。
- 学級での話し合い活動は、どの学級も適宜行っています。ただ、教師から話題を提案することが多いので、子供たちから学級の課題が出てくるよう工夫し、みんなで話し合う雰囲気作りに努めていきたいと思います。